

KUAI LE DE
RI YU

王彦花 编译
林镐根 校

快乐的日语

たのしい日本語

新时代出版社

快乐的日语

たのしい日本語

王彦花 编译

林镐根 校

新时代出版社

内容简介

本书及所配录音磁带(一盒),是为了帮助具有一定日语基础的读者进一步提高听、说能力而选编的。课文选自日本小学国语课本,内容生动、活泼、趣味性很强,充满了生活气息。

为便于读者使用,每篇课文都附有单词(在课文中用下角码标示)、课文注释(包括句型)(在课文中用上角码标示)及参考译文。同时,为使读者很好地理解日语基本语法,有的句子作了直译。

本书可供具有一定日语基础的读者进一步提高听、说能力用。也适合具有初步日语基础语法的读者练习听力用。

快乐的日语

たのしい日本語

王彦花 编译

林镐根 校

新时代出版社出版发行

(北京市紫竹院南路 23 号)

(邮政编码 100044)

国防工业出版社印刷厂印装

787×1092 毫米 32 开本 印张 2 $\frac{1}{2}$ 54 千字

1992 年 11 月第 1 版 1992 年 11 月北京第 1 次印刷

印数: 0001—3000 册

ISBN 7-5042-0109-X/H · 14 定价: 1.60 元

前 言

近年来,随着中日两国友好关系的发展,两国官方和民间的各种交往越来越广泛、频繁。但不少人限于日语听说能力方面的原因,给相互间的交流带来了不少困难。为帮助读者提高日语听说能力,我们编写了此书。书中课文部分配有录音带一盒,可供读者选购。

本书课文选自日本小学国语课本,内容生动、活泼、趣味性强,充满了生活气息。配音员绘声绘色的朗读会使读者置身于日本语言的实际氛围中。

为便于读者使用,每篇课文都附有单词、课文注释(包括句型)及参考译文。同时,为使读者很好地理解日语基本语法,有些句子做了直译。

由于水平有限,书中难免有错误及不妥之处,望各位读者予以指正。

编者

目 录

第一課	海をあげるよ	1
第二課	手袋を買いに	12
第三課	太郎こおろぎ	32
第四課	たぬきの糸車	41
第五課	一つの花	48
第六課	石うすの歌(一)	59
第七課	石うすの歌(二)	67
第八課	石うすの歌(三)	79

第一課 海をあげるよ

山下 はるお

だいじな①だいじなわたるくんのバスタオル②がなくなりました。お母さんが洗濯して外に干して③おいたところ^[1]、ピューッとすごい風が吹いて、バスタオルを飛ばしてしまったのです。

困ったことに^[2]、風を追い掛けて④、どしゃぶり⑤の雨になりました。わたるくんは泣いています。

“あれがなくっちゃ^[3]、お昼寝⑥できないよう。”

それはそうでしょう。あのバスタオルはわたるくんが赤ちゃん⑦の時から、いつもかけて寝ていたものなのです。いまでも、タオルの端⑧をちゅくちゅく⑨しゃぶり⑩ながら寝なければだめなのです。少しすりきれ⑪ているけれど、青いすてきな⑫タオルです。

“きっと森まで飛んでった^[4]のよ。雨が止んだら、さがしに行こうね。”

お母さんが言いました。でも、わたるくんはお昼寝もしないで、雨といっしょに泣いています。

ようやく⑬雨が上がりました。わたるくんとお母さんはさっそく⑭森へタオルをさがしに出かけました。

森は家のすぐ前です。できたばかりの水たまり⑤に青い空が映って⑥います。葉っぱ⑦の上で雨のしずく⑧がビーだま⑨みたいに光っています。雨のビーだまが空色の水たまりにきらきら⑩ころりと⑪落ちました。

あれあれ⑫、水たまりだと思ったのは雨にぬれた青いタオル。わたるくんのバスタオルです。

“や、見いつけた⑬。”

わたるくんはタオルの方に走っていこうとしました^[5]。

“しっ。”

お母さんがわたるくんの腕をひっぱり⑭ました。どこからかかわいい声が聞えたからです。歌うような声でした。

“や、見いつけた。いいもの見いつけた。”

見ると、ふき⑮の葉の上から小さなかえる⑯がわたるくんのタオルをのぞきこんで⑰います。

“あれ、何だろな。そうだ、兄ちゃんに聞いてみよう。”

小さなかえるはふりかえって⑱、兄ちゃんを呼びました。兄ちゃんがえるも葉っぱの上からのぞきこみました。

“海かしらね。海は青くって、大きいって、父ちゃんが話していたもの。”

兄ちゃんがえるが言いました。

“やっぱり海か。でも、海には船が浮んでいるだろ。”

弟がえるが言った時です。木の葉が一枚ふわりっと⑲落ちてきて、船になって浮びました。

“海だ、海だ。ぼくたちの海だぞお。”

二匹はいっしょにバスタオルの海に飛び込みました。二匹のかえるは海の中ではねまわって㊦、すもう㊦を取りました。かえるおよぎ㊦で競争をしました。棒を持って、船を漕ぎました。それから、棒をつりざお㊦にして、魚をつりました。

“つりたいな。つりたいな。

大きな魚つりたいな。

船よりでっかい㊦、海よりでっかい、

大きな魚。

ケロッ ケロッ ケロッ。”

二匹のかえるは歌いながら、つりざおをふりまわしています。

“うふふ。”

わたるくんは思わず笑い出しました。その時です。三角頭の長いへび㊦が赤い舌を出しながら、海に近づいて㊦きたのです。

“あぶない、逃げろ㊦。”

わたるくんは叫びましに。二匹のかえるは急いで飛び込み、タオルの下に隠れました。へびはゆっくりタオルのそばを横切って㊦、森の奥㊦へ消えて㊦いきました。

“ああ、よかった。”

わたるくんはお母さんの手を握り締め㊦ました。

“どうする。あのバスタオル、持ってかえる。”

お母さんがわたるくんの顔をのぞきこみました。

“いいよ。あの海、夜までかえるくんに貸してあげ

る^[6]。”

わたるくんはそう言って、そっと④森から離れました。

晩ごはんのあとで、わたるくんとお母さんはまた森に来ました。森の中はもう真っ暗④でした。突然、わたるくんの目の前を光の筋④が飛びました。

“あ、ほたる④。”

お母さんが言いました。

ほたるはゆっくりと飛んで、バスタオルの海の端っこ④にとまりました。ほたるの光がとうだい④のように静かな海を照らし④ました。すると、そのとうだいの光の陰④にまだ二匹のかえるが寝そべって④いるのが見えました。かえるの兄弟は、

“海っていいねえ。”

“ほんとに海ってすてきだねえ。”

そう話しあっているようでした。

わたるくんはお母さんの耳に口をつけて言いました。

“ねえ、あれ、ここに置いて帰っちゃいけない^[7]”。

“だいじょうぶかしら^[8]。あれがなくてもちゃんと④眠れる。”

お母さんもわたるくんの耳に口をつけて言いました。

“だいじょうぶさ。かえるくん、その海きみたちにあげるよ。”

わたるくんはそう言うとお母さんの手をひっぱって、ずんずん④森から出てきました。

静かな静かな森の中では、あの小さなとうだいがいつ

までも小さな海を照らしていました。

単語

- ① だいじ〔大事〕 (名・形动) 重要的; 宝贵的; 珍贵的
- ② バスタオル (名) 浴巾
- ③ ほす〔干す〕 (他五) 晒; 晾
- ④ おいかける〔追い掛ける〕 (他下一) 追赶; 紧接着
- ⑤ どしゃぶり〔土砂降り〕 (名) 倾盆大雨
- ⑥ ひるね〔昼寝〕 (名・自サ) 午睡
- ⑦ あかちゃん〔赤ちゃん〕 (名) 婴儿
- ⑧ はし〔端〕 (名) 边; 缘; 端; 头
- ⑨ ちゅくちゅく (副) (抿着嘴连续吮吸液体时发出的声音及其样态) 啾啾地
- ⑩ しゃぶる (他五) (含在嘴里) 吸; 啣
- ⑪ すりきれる〔擦り切れる〕 [自下一] 磨破
- ⑫ すてき〔素敵〕 (形动) 极好; 极漂亮; 绝妙
- ⑬ ようやく (副) 好容易; 总算
- ⑭ さっそく (副) 立刻; 马上
- ⑮ みずたまり〔水たまり〕 (名) 水坑; 水洼
- ⑯ うつる〔映〕 (自五) 映; 照
- ⑰ はっぱ〔葉っぱ〕 (名) 叶子
- ⑱ しずく (名) 水滴; 水珠
- ⑲ ビーだま〔ビー玉〕 (名) (儿童玩具) 玻璃球
- ⑳ きらきら (副) (闪光发亮的物体闪耀出美丽光彩的样态) 闪烁; 一闪一闪

- ㉑ ころりと (副)(小物滚动)轱辘
- ㉒ あれあれ (感叹词“あれ”的重叠)哎呀(用于突然发现什么或吃惊时)
- ㉓ みいつける〔見い付ける〕 (他下一)(与“見付ける”相同)发现;找到
- ㉔ ひっぱる〔引っ張る〕 (他五)(用力)拉;拽
- ㉕ ふき (名)蜂头菜
- ㉖ かえる〔蛙〕 (名)蛙
- ㉗ のぞきこむ (他五)探头偷看
- ㉘ ふりかえる〔振り返る〕 (自五)回头看;向后看
- ㉙ ふわりと (副)(与“ふわりと”相同,表示物体在空中或在水中轻轻地飞舞、漂浮状)轻捷地
- ㉚ はねまわる〔跳ね回る〕 (自五)(到处)乱蹦乱跳
- ㉛ すもう〔相撲〕 (名)相扑
- ㉜ かえるおよぎ〔蛙泳ぎ〕 (名)蛙泳
- ㉝ つりざお (名)钓鱼杆
- ㉞ でっかい (形)(俗语“でかい”的加强语,意思与“大きい”相同)大的
- ㉟ へび〔蛇〕 (名)蛇
- ㊱ ちかづく〔近付く〕 (自五)靠近;挨近
- ㊲ にげる〔逃げる〕 (自下一)逃跑;逃脱
- ㊳ よこぎる〔横切る〕 (他五)横穿;穿过
- ㊴ おく〔奥〕 (名)里边;深处;内部
- ㊵ きえる〔消える〕 (自下一)消失
- ㊶ にぎりしめる〔握り締める〕 (他下一)握紧;紧紧

握住

- ④② そっと (副)悄悄地;偷偷地
- ④③ まっくら〔真っ暗〕 (名・形动)漆黑;乌黑
- ④④ すじ〔筋〕 (名)线;纹
- ④⑤ ほたる (名)萤火虫
- ④⑥ はしっこ〔端っこ〕 (名)(俗语,与“端”相同)端;头;边儿
- ④⑦ とうだい〔灯台〕 (名)灯塔;灯台
- ④⑧ てらす〔照らす〕 (他五)照;照耀
- ④⑨ かげ〔陰〕 (名)背后;背面;看不见的地方;背光处
- ④⑩ ねそべる〔寝そべる〕 (自五)躺着;俯卧
- ④⑪ ちゃんと (副)规规矩矩;好好地
- ④⑫ ずんずん (副)迅速地

课文注释

〔1〕 外に干しておいたところ:刚晒在外边的时候。
补助动词“おく”表示预先做好某种动作或保持某种动作后的状态。“ところ”是名词,接在动词过去式后面,以“…たところ”的形式,表示“刚…过”,“刚…完不久”的意思。

〔2〕 困ったことに:糟糕的是…。 “困る”、“驚く”,“不思議”,“残念”等词后面接“ことに”,可以较强烈地表达说话人的惊讶,遗憾等感情。可译成“…的是,”。

〔3〕 あれがなくっちゃ:如果没有那个。“ちゃ”是“ては”的音便,多用于口语。“なくっちゃ”与“なくては”相同。

〔4〕 森まで飛んでった:飘落到森林去了。“飛んでっ

た”是“飛んでいった”的省略说法。

〔5〕 走っていこうとしました:想跑过去。“いこう”是补助动词“いく”的未然形。推量助动词“う(よう)”后接“とする”构成句型,表示“想(要)…”,“将(要)…”等意。

〔6〕 かえるくんに貸してあげる:借给青蛙君。“あげる”在此是补助动词,它接在“动词连用形+て”后面,表示给别人做某种动作。不能用来表示给第一人称做某种动作。

〔7〕 ここに置いて帰っちゃいけない:放在这儿回去不行吗?“ちゃ”是“ては”的音便,多用于口语。“…ちゃいけない”相当于“…てはいけない”,表示禁止。可译成“不能…”、“如果…就不行”等。

〔8〕 だいじょうぶかしら:不要紧吗?“かしら”是终助词,女性用语。表示疑问或自问。

参考译文

把海送给你

渡君那非常非常重要的浴巾不见了。妈妈洗完衣服,刚晾在外边不久,“飕——”一阵大风吹来,把浴巾刮跑了。

糟糕的是大风过后,紧接着下起了倾盆大雨。渡君哭了。

“没有浴巾我不能睡午觉呀!”

是啊,那块浴巾是渡君从婴儿时候开始,就盖着它睡觉的。直到现在,还是如果嘴里不噙噙地吸着浴巾的边儿就睡不着。虽然磨破了点儿,但还是一块漂亮的蓝色浴巾。

“一定是飘落到森林里去了，等雨停了咱们找去！”妈妈说。

可是渡君还是不睡午觉，和雨一起哭泣。好不容易雨才停了，渡君和妈妈赶忙到森林去找浴巾。

森林就在他家跟前。刚形成的水坑里映着蓝色的天空。雨水珠在树叶上像玻璃珠一样闪耀着。玻璃球似的雨水珠儿闪耀着滚落在蓝色的水坑里。

哎呀呀！以为是水坑的地方正是被雨淋湿了的蓝色浴巾，是渡君的浴巾呀！

“呀！找到了！”

渡君想跑向浴巾。“嘘——！”妈妈拉住了渡君的手腕。因为妈妈不知从哪儿听见了动听的声音。好像是歌声：

“呀！我看到了。我看到好东西了！”

仔细一看，是一只小青蛙正从蜂头菜的叶子上探头偷看渡君的浴巾。

“哎呀，那是什么？对了，去问问哥哥。”小青蛙回过头来叫哥哥。青蛙哥哥也从树叶上探头偷看。

“也许是海吧！因为爸爸说过海又蓝又大。”青蛙哥哥说。

“果然是海呀。可是海里有船吧！”

青蛙弟弟这么说的时侯，正好一片树叶轻轻落下来，变成船浮起来了。

“海！海！那是我们的海！”

两只青蛙一起跳进浴巾海。它们在大海中到处乱跳、玩摔跤、进行蛙泳比赛、用木棍划船。然后又把木棍当钓鱼杆，

钓起鱼来。

“想钓鱼，想钓鱼，想钓大鱼。

比船大、比海大的鱼。

呱 呱 呱。”

两只青蛙一边唱一边挥舞着木棍。

“嘻！”

渡君不由得笑起来了。就在这时，一条三角脑袋的长蛇吐着红舌头向海靠近了。

“危险！快逃！”渡君喊起来。

两只青蛙急忙跳进去，藏在浴巾底下。蛇慢慢地穿过浴巾旁，消失在森林深处。

“啊，太好了。”渡君说着，紧紧地握住了妈妈的手。

“怎么办？那浴巾还带回去吗？”妈妈偷偷观察渡君的表情。

“行啊，把那海借给青蛙君用到晚上。”渡君说完，就悄悄地离开了森林。

吃过晚饭，渡君和妈妈又来到了森林。森林里已经漆黑。突然一道光飞过了渡君的眼前。

“啊，萤火虫！”妈妈说。

萤火虫慢悠悠地飞着，落在了浴巾海的边儿上。萤火虫的光像灯塔一样，照耀着静静的海。于是看见那两只青蛙还仰卧在那灯塔的影子里。

青蛙兄弟俩好像在交谈：

“海真好！”

“海的确真棒！”

渡君把嘴挨近妈妈的耳边说：

“唉，浴巾放在这儿，我们回去不行吗？”

“你不要紧吗？没有浴巾也能很好地睡吗？”妈妈也把嘴挨近渡君的耳边说。

“没关系。青蛙君，我把海送给你们！”

渡君说完，便拉着妈妈的手，飞快地从森林里走了出来。

在那非常宁静的森林里，那小小的灯塔永远照耀着那小小的海洋。

第二課 手袋①を買いに

新美 南吉

寒い冬が北方からきつね②の親子の住んでいる森へもやってきました。

ある朝、ほらあな③から子供④のきつねが外に出ようとしましたが、

“あっ。”

と叫んで、目を押え⑤ながら、母さんぎつねの所へ転がてきました。

“母ちゃん、目に何かささった⑥。抜いてちょうだい⁽¹⁾。早く、早く。”

と言いました。

母さんぎつねがびっくりして、あわてふためき⑦ながら、目を押えている子供の手をおそろおそろ⑧取りのけて⑨みましたが、何もささってはいませんでした。母さんぎつねはほらあなの入り口から外へ出て、はじめてわけ⑩が分かりました。昨夜のうちに、真っ白な雪がどっさり⑪降ったのです。その雪の上からお日様がきらきらと照らしていたので、雪はまぶしい⑫ほど反射していたのです。雪を知らなかった子供のきつねはあまり強い反射を